

◆特集 利用者のニーズに沿った支援を行う◆

事例報告(3)

報告書の作成について

乾 郁 子

I. はじめに

学術資料室（以下図書室という）への配置換えから、2年目の4月を迎え新たな気持ちでいたところ、立て続けに文献複写依頼を受け、連日辟易しておりました。昨年と比較し、いったいどれくらいの違いがあるのだろうか、2年目に入り少しは要領も得ているはずなのに、なぜこんなにアクセクしているのだろうかと考えました。

そこで、所属上長に年単位で提出している報告書と比較してみることにしました。まず毎月作成している図書室利用者数、文献複写依頼件数、文献複写受付件数を昨年と比較してみることからはじめました。

II. 報告書の作成・内容について

1. 図書室利用者数（表1）

当室は24時間365日入室可能な部屋でカードリーダーを各職員が所持し、これを使用し入室します。今年、確実な数を把握するためにある一日のデーターを取り出したところ、21:45入室 22:00入室 2:05入室 3:25入室……というような入室記録があり、これは、特定の2人が利用していました。また、日中は当室勤務者やコピー機を使用する事務職員の記録も含まれており確実なデーターにはならな

いことが判りました。そこで従来通り（勤務時間内）の目視で記録する方法をとりました。

単に学術書を読む以外に文献検索用コンピュータ2台・プリンター2台・オーダーリング端末1台が設置されているので、これらを利用する方々も含まれます。

2. 文献複写申込件数（表2）

他施設に文献複写を依頼する際に、申込件数の上限は設定していませんが、費用は振り込み料等含め個人負担としています。そして、依頼者の職種別に把握できるよう、日赤図書室協議会と近畿病院図書室協議会の会員になっている関係上、依頼をした図書室を区別してカウントできるよう報告書を作成します。余談ですが、各協議会のアンケート調査のときなどにとても役立ちます。

3. 文献複写受付件数（表3）

他施設から当室が文献複写の依頼をうけた件数は、文献複写申込件数と同様、日赤図書室協議会会員か近畿病院図書室協議会会員かなどを区別してカウントします。なお、職種別まではカウントしません。

III. 件数比較

図書室利用者数、文献複写申込件数、文献複写受付件数をそれぞれ日別、月別、年別と作成しております。以下は年別による月別比較表です。

INUI Ikuko

大阪赤十字病院 診療情報管理課
library@osaka-med.jrc.or.jp

表1 図書室利用者数 (延人数)

	4月	5月	6月
2007年	339	256	278
2008年	327	352	478

表2 文献複写受付件数 (延人数)

	4月	5月	6月	合計
2007年	24	47	50	121
2008年	32	42	59	133

表3 文献複写依頼件数 (延人数)

2007年	4月	5月	6月	合計
医師	2	22	20	44
コメディカル	-	-	-	0
看護師	3	-	-	3
合計	5	22	20	47

2008年	4月	5月	6月	合計
医師	31	33	57	121
コメディカル	-	6	-	6
看護師	9	33	20	62
合計	40	72	77	189

IV. 結果

図書室利用者数は前年と比較して5月と6月は大幅に増加していました。文献複写受付件数の場合は、121件から133件と大差ありませんでした。文献複写申込件数は前年3ヶ月間の合計47件から189件へと4倍程になっていました。このように、漠然としていたものが数値化することにより明確になり、なにが原因で慌ただしい思いをしたのかが判りました。業務量が増えた原因は図書室利用者の増加とともに文献複写申込件数が大幅に増加したことによるものでした。特に看護師による申込み件数が一気に増加しており、また、医師によるものも6月分件数は前年と比較し3倍近く増加したことが判りました。

V. まとめ

今年、文献複写依頼が増えたのは看護部による研修説明会で文献検索方法が紹介されたことがきっかけでした。当院では、卒業後2年目～3年目に当たる看護師はケーススタディと称し、段階を経て個人の看護レベルを高めるために、テーマを設定し該当患者のケースを研究し報告する研修会が毎年あります。院内で各人が発表し、一部は外部の看護研究

会等にも報告されるそうです。以前は本の見出し等を参考に関係書物を探していたことでした。

今回、一部の看護師の依頼で論文末の引用文献を乞われるまま、文献複写申込みを受けかなりの時間をかけて揃えましたが、本当に役立ったのか疑問を感じました。というのは会議録やあまり知らない学会誌の文献複写がかなりあったからです。より確実性のある文献検索の仕方を研修説明会等で紹介する必要性があると気付きました。

そして、(今回の)報告書では当室に所蔵する書籍や電子ジャーナルから入手可能なものは係員がプリントアウトして依頼者に無料提供しているもの、また、入手困難で発行元に直接交渉し、無料送付により得たものは件数には入れませんでした。仕事量の把握ということに関していえば、当然これらも件数に反映させるべきだと感じました。

病院勤務とはいえ、私は医療現場や患者さんに直接関わりませんが、的確な判断力を持つ医師や看護師、その他コメディカルの要望に応えることにより、診療に貢献出来る部署だとあらためて思いました。